

2008 年 10 ~ 12 月号

(年 4 回発行)

プレス会報 大阪

OSAKA METAL STAMPING ASSOCIATION'S NEWS

News Report

OMSA

▼ TABLE OF CONTENTS ▼

- ◆ 経済産業省編
「新経済成長戦略」刊行によせて..... 2
麻生太郎、二階俊博、御手洗富士夫、清家 孝
- ◆ 事業経過報告..... 6
- ◆ 第10回健康ハイキングのご案内.....10
- ◆ 忘年会のご案内.....11
- ◆ ISO旬報.....12
- ◆ シリーズ「こども環境白書」(最終回)18
大切なのは。「こまわり」!

社団法人 大阪金属プレス工業会

<http://www.omsa.or.jp/>

日本経済の新たな船出にあたって



資源高や食糧高など、現在、日本を取り巻く環境は厳しい状況にあります。しかし、日本は強くあらねばなりません。

強い日本とは、難局に臨じて動じず、むしろこれを好機として、一層の飛躍を成し遂げる国であります。私は、日本と日本人の底力に一点の疑問も抱いたことがありません。私は、変化を乗り切って大きく脱皮する日本人の力を信じています。

日本には、勤勉な国民性に加え、世界最高水準の省エネ・新エネ技術などの優れた技術力があります。さらには、世界の人々の舌を唸らせる付加価値の高い農林水産物、アニメを始めとした世界に冠たる「ジャパニカル」など、日本の「強み」は枚挙にいとまがありません。

こうした底力を解き放ち、将来にわたって日本が成長を図っていくためには、改革による成長を追い求めるほかに道はありません。新たな産業や技術を生み出し、それによって、新規の需要と雇用を生み出さねばなりません。

石油ショック、円高など、幾度となく厳しい荒波に飲み込まれながらも、日本経済は、果敢にそれを乗り越え、その都度、強くなってきました。そして今再び、荒れ狂う新たな海へと船出しようとしています。

しかし、これは「海図なき船出」ではありません。日本が進むべき航路は、この「新経済成長戦略」改訂版の中にはっきりと示されています。

国会における先の所信表明演説でも申し上げましたが、私は、これらの政策を着実に推し進めることによって、必ずまた、この荒波を乗り越え、力強い日本経済を取り戻すことができると信じています。



内閣総理大臣

安倍 晋三

「新たな成長」を切り拓くために

～「新経済成長戦略2008改訂版」の策定に当たって～



私が二年前に、経済産業大臣であった2006年6月、人口減少下においても成長を実現するための「新経済成長戦略」を策定しました。その際、私は、一行たりとも疎かにせず実現に努力するよう指示しました。その後関係者のご努力により、施策は着実に効果をあげてまいりました。

他方で、現下の我が国経済は、これまで想定できなかった未曾有の資源高、新興国や資源国の台頭による世界経済の多極化などの課題に直面しています。

こうした状況の下、私は本年8月、再度、経済産業大臣を拝命しました。

私は、就任直後、今まさに直面する「ピンチ」を「チャンス」に変え、新たな成長への道を切り拓いていく必要を感じ、この「戦略」について、策定以後の構造変化を踏まえ、早急に改訂するよう指示しました。

今回の改訂では、「資源生産性向上」、「イノベーションと所得還流の好循環」、「グローバル戦略の再構築」、「地域・中小企業・農林水産業・サービスの未来志向での活性化」など、「戦略」を抜本強化する政策パッケージを新たに提示し、今後の構造的な人口減少時代・資源高時代でも成長を可能とする道筋を描いています。

作業にあたっては、政府全体の取組として、夏休みを事実上返上して、ある時は昼夜兼行で、関係各府省の建設的なアイデアもいただき、また、各方面からもご意見を拝借しながら、政策の停滞が起きないように懸命に頑張っており、与党の了承を得た上で、経済財政諮問会議に報告の上、本年9月19日に閣議決定に至ることができました。関係各位のご協力に心から感謝を申し上げます。

我が国はまだ、世界に誇ることでできる数多くの「強み」を持っています。この改訂は、そうした「強み」を活かしながら、官民が自信を持って次なる成長へのステップを確かに踏み出すためのものです。

閣議決定は、あくまでスタートであり、まさに政府が一体となり、スピード感をもって実行に移していくことが重要です。

また、経済は日々動いております。昨今の国際金融市場の混乱やそれに伴う世界的な実体経済への影響が予断を許さない状況となる中、経済運営に万全を期すために、絶えず機動的に対策を講じていくことが重要であります。

国民が自信と安心を持つことが出来る「新たな成長」を実現するため、一刻の猶予もないとの覚悟で、今後の政策展開に臨みたいと考えています。ご協力をお願い申し上げます。

平成20年9月
経済産業大臣

二階 俊博

希望に満ち、活力あふれる日本経済のために



わが国企業をとりまく環境は一層厳しさを増しています。国際金融不安に端を発する世界経済の減速は深刻の度を増し、資源・エネルギー・食料価格の高騰や地球環境問題への対応など、グローバルな課題が山積する中で、日本全体が閉塞感に覆われ、社会の安定をすら損ないかねない状況に至っています。

こうした状況を克服して、日本経済の活力を取り戻し、希望ある未来を切り開くためには、以下に示す3つの観点から、強い意思とリーダーシップによる早急な取り組みが必要です。

第1に、経済のグローバル化の流れが今後ますます強まってく中、わが国としてもオープンで柔軟性のある経済構造をつくっ

ていくことです。

第2に、資源・エネルギー価格は、投機的な要因による部分がはく落したとしても、新興国が高い経済成長を遂げる中で、1990年代のように低位安定するということは考えにくく、新しい価格体系に適応できるように、経済構造を変化させることです。またこれとあわせて、地球温暖化を防ぐ観点からも、経済と環境が両立する社会の構築に向けた取り組みが欠かせません。

第3に、わが国が本格的な人口減少社会へ突入しつつある中で、国民の将来不安を払拭し、中長期的に経済の活力を維持できる社会システムを構築することです。

今般閣議決定された「新経済成長戦略」改訂版は、「資源生産性」の抜本的向上とグローバル化の徹底を2つの基本戦略として、わが国経済構造の変化を促し「新しい成長」を切り拓くとしています。これは、経済界の問題意識と軌を一つにするものであり、こうした戦略が政府の基本的な方針として閣議決定されたことを歓迎いたします。戦略の早期実現に向け、政府が迅速に具体的な行動をとることを期待するとともに、経済界としても不断の努力を重ね、責任の一翼を担う所存です。

わが国はこれまでも、オイルショックや、バブル経済の崩壊など、さまざまな試練を乗り越えてまいりました。こうした経験を踏まえ、政府と経済界が車の両輪となって改革を推し進めていけば、必ずや状況は打開されると信じています。

今回の「新経済成長戦略」改訂版が、希望に満ちた未来と活力あふれる経済社会を実現するための道標となりますことを、心より祈念いたします。

平成20年9月

日本経済団体連合会会長

キヤノン（株）代表取締役会長

御手洗富士夫

今こそ、未来志向での 地域・中小零細企業の活性化を



昨今の資源価格高騰は、これに伴うコスト増を価格に転嫁することが困難な中小零細の商工業者を直撃しており、売上げや収益は、昨年末から一貫して悪化しています。また、米国の金融不安により世界経済が混迷の度を深める中、我が国金融機関の中小零細企業に対する融資姿勢は厳しくなってきました。

今、一刻の猶予もなく、中小零細企業の収益改善や資金繰り円滑化に向けた早急な梃子入れ策を講ずる必要があります。

このため、政府におかれては、中小零細企業の資金繰り対策の拡充等を盛り込んだ「安心実現のための緊急総合対策」を8月29日に決定されるとともに、この裏付けとして、事業規模9兆円程度度の中小企業金融対策を含む補正予算を編成されました。我々としては、まずはその早急な実現をお願いしているところです。

こうした緊急的な対応と併せ、中小零細企業がこれからの資源高時代を克服し、適応できるよう、体質を強化していくことも待ったなしの状況です。また、攻めの姿勢を打ち出していくこと、すなわち、新興国のマーケットが拡大する中、更なる発展を遂げていくため、海外市場開拓等の取組を支援し、新たな成長フロンティアへの挑戦を容易にしていくことも重要です。さらには、農商工連携等による農林水産業の競争力強化を梃子にした地域活性化に真剣に取り組んでいくことも然りです。

この「新経済成長戦略」改訂版は、こうした状況下において、短期のみならず、中長期的視点で取り組むべき内容を盛り込み、未来志向での地域・中小零細企業の活性化、「新たな成長」に向けた戦略が描かれています。このような充実した戦略が、時宜を得た形で策定され、閣議決定されたことを、高く評価します。

今後、この戦略がスピード感を持って着実に実行され、中小零細企業が将来に希望を持って取組み、地域活性化に挑んでいく環境の整備が不可欠です。

我々としても「地域を支えるのは自分たちだ」という自負を持ち、地域活性化に取り組んでまいります。

平成20年9月

全国商工会連合会会長

清 家 孝

事業経過報告

7/28~10/28

総務委員会

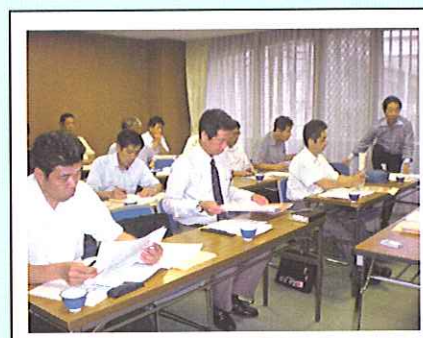
第1回事業活性化委員会

- 開催日 7月28日(月)
- 場 所 工業会事務所
- 出席者 9名
- 議 事 (1)事業運営のあり方について
(2)財務内容について
(3)事務局要員について
(4)新公益法人制度への移行について



下請適正取引ガイドライン説明会・経営者懇話会

- 開催日 8月28日(木)
- 場 所 たかつガーデン
- 出席者 15名
- 内 容 親事業所との適正な取引関係の構築
(下請けいじめ対策→下請かけこみ寺)



第2回正副委員長会議

- 開催日 10月8日(水)
- 場 所 たかつガーデン
- 出席者 15名
- 議 事 (1)平成20年度上期事業報告
(2)会員異動状況
(3)平成20年度上期収支報告
(4)平成20年度下期事業計画



第101回理事会

- 開催日 10月21日(火)
- 場 所 たかつガーデン
- 出席者 24名
- 議 事 (1)日金協の動向について
 - ①公益法人制度検討委員会
 - ②第24回プレス安全・環境大会
 - ③実践型人材育成システムの導入(2)平成20年度上期事業報告
- (3)会員異動状況
 - 退会(正会員)川中精機工業(株)、(株)トーケン
 - (賛助会員)タカウエ経労研(4)平成20年度上期収支報告
- (5)平成20年度下期事業計画



技能検定「金属プレス加工」学科講習会

- 開催日 8月2日(土)・3日(日)
- 場 所 (株)アマダ大阪営業所
- 受講者 58名
- 講 師 北山信雄氏(元 パナソニック(株))



技能検定「金属プレス加工」実技講習会

- 開催日 9月4日(木)～7日(日)
- 場 所 大阪府立南大阪高等職業技術専門校
- 受講者 68名



技能検定「金属プレス加工」実技試験

- 開催日 9月8日(月)～11日(木)
- 場 所 大阪府立南大阪高等職業技術専門校
- 受検者 1級=20名 2級=68名



同上合格発表

- 発表日 10月3日(金)
- 場 所 大阪府職業能力開発協会
- 合格者 1級 9名(内工業会2名) 実技合格者1名(0) 学科合格者3名(2名)
(技能士) 2級43名(内工業会18名) 実技合格者9名(7名) 学科合格者8名(6名)

1級技能士	瀬川隆博(タチバナ精機(株))	村山 亘(株)カサタニ
2級技能士	池端準也(株)カサタニ	平山雄太(株)カサタニ
	北島克昭(株)カサタニ	猿渡良輔(株)エスケイケイ
	蜷川 仁(株)エスケイケイ	田島泰之(株)エスケイケイ
	桜井洋一(株)エスケイケイ	吉田 豊(株)エスケイケイ
	山崎正広(株)津村製作所	井上輝彦(株)銭屋アルミニウム製作所
	荒木隆史(国産部品工業(株))	神藤 優(株)銭屋アルミニウム製作所
	大槻純平(国産部品工業(株))	吉野文喜(夏山金属工業(株))
	梶田健輔(佐々木工業(株))	石脇達司(株)トーケン
	堀内俊史(東洋ハトメ工業(株))	沖津健二(朝田金属工業(株))

経 営 委 員 会

第3回経営・労務研究会

- 開催日 8月27日(水)
- 場 所 たかつガーデン
- 出席者 10名
- 内 容 テーマ：メンタルヘルス対策のポイント
講 師：宮川弘之氏（社会保険労務士）



第4回経営・労務研究会

- 開催日 10月28日(火)
- 場 所 たかつガーデン
- 出席者 10名
- 内 容 テーマ：就業規則改正のポイント
講 師：宮川弘之氏（社会保険労務士）



ISO 推進委員会

第3回ISO推進委員会

- 開催日 9月29日(月)
- 場 所 工業会事務所
- 出席者 6名
- 議 事 (1)ISO14001 内部監査員養成セミナー
(2)第3回品質改善セミナー
(3)モデル企業見学会
(4)ISO 旬報掲載記事



ISO14001 内部監査員養成セミナー

- 開催日 10月3日(金)・4日(土)
- 場 所 たかつガーデン
- 受講者 9名
- 受講料 20,000円
- 講 師 孫入修一氏
(㈱トーマツ環境品質研究所)



青年部会

8月例会

- 開催日 8月21日(木)
- 場 所 工業会事務所
- 出席者 7名
- 内 容 近況報告会



9月例会

- 開催日 9月14日(日)
- 場 所 滋賀県近江市
- 参加者 19名
- 内 容 ぶどう狩りと近江水郷めぐり



10月例会

- 開催日 10月17日(金)
- 場 所 澁谷工業(株)(金沢市)
- 参加者 8名



平成20年 新入会員紹介(敬称略)

福居 潤 (㈱河合製作所 係長・36才)	1.25 入会
西村幸恭 (㈱西村技研 取締役・25才)	1.30 入会
高原浩憲 (㈱ライト 社長・34才)	3.24 入会
松居克浩 (共同精機工業(株) 営業技術部長・29才)	3.26 入会
名山義朗 (㈱マール金属製作所 製造課長・41才)	8.20 入会

50才以下なら、どなたでも
入会できます。

事務局までご連絡下さい。

TEL 06-6762-8629

(池田)

平成 20 年 10 月 15 日

会 員 各 位

(社)大阪金属プレス工業会
労務担当委員長 東 潤一郎

第10回 健康ハイキングのご案内

季節の華やかさと変わらぬ歴史の息吹が人々を魅了する **吉野** を、心ゆくまでご堪能下さい！

役行者が金峰山寺を開いてから、吉野山は修験道の聖地として栄えてきました。
鎌倉時代には義経・弁慶主従が隠れ住み、次に南北朝時代には後醍醐天皇の吉野朝宮も置かれました。そしてあの豊臣秀吉の花見の舞台……今は20日もかかって山上へ咲き登る桜の名所、史跡の山として知られています。

➤ **日 時** 11月23日(日) 10:10集合(厳守)

➤ **集合場所** 吉野山駅(山上) 吉野駅から徒歩3分の千本口駅からケーブルで3分

➤ **募集人数** 50名(中学生以上)

近鉄(大阪阿部野橋)8:20 発 急行
吉野着 9:52 950 円
ケーブル(千本口)10:05 発 350 円

➤ **参加費** 無 料(交通費は各自負担、昼食代・バス代・拝観料等3,500円は

工業会負担)

➤ **昼 食** 竹林院で会席・群芳園(大和三庭園)散策

コース：吉野町観光ボランティアガイドの会によるガイド付き

山上駅→(バス)→西行庵→金峰山寺→水分神社→花矢倉(展望台)→

竹林院(昼食)→吉水神社→吉野朝宮跡→

蔵王堂(世界遺産)→銅の鳥居→黒門→

→解散(買物)→山上駅



金峰山修験本宗
秘木山
金峰山寺

切らずにこのままFAX下さい。

(社)大阪金属プレス工業会 事務局宛 FAX 06-6762-7633

第10回 健康ハイキング参加申込書

会社名			担当者名		
参加者名	①		④		
	②		⑤		
	③		⑥		

※6名を超える場合はコピー願います。但し応募者多数の場合は、人数制限させていただきます。

平成 20 年 10 月 24 日

会 員 各 位

(社) 大阪金属プレス工業会
会 長 吉 田 多 佳 志
交流担当委員長 夏 山 享 啓

忘年会開催のご案内

前略 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、恒例の忘年会を下記のとおり開催致しますので、会員企業の皆様におかれましては、この
時節大変ご多用とは存じますが、万障お繰り合わせの上ご参加下さいますようお願い申し上げます。

敬 具

記

◇ 日 時 12月16日(火) 18:00~20:00

◇ 場 所 シェラトン都ホテル大阪 3階「春日の間」
大阪市天王寺区上本町6-1-15 TEL 06-6773-1111

◇ 参加費 10,000円/人 (振込先) 三菱東京 UFJ 銀行 上本町支店
(社)大阪金属プレス工業会 会長 吉田隆司
口座番号 普通 487575

以 上

(社) 大阪金属プレス工業会宛
FAX 06-6762-7633 Mail omsa1@omsa.or.jp

12/16 忘年会参加申込書

企業名		
参加者	役職名	氏 名
お支払い方法	☐ 当日払い	☐ 振込(月 日予定)



ISO推進委員会

まえがき

ISO9001:2008年版は今年中に発行されます。

改訂に伴い、ISO9001認証取得企業は、2008年版への移行準備・移行審査が、認証取得挑戦企業は、2008年版での受審準備が必要となります。

今回の改訂は、規格要求事項に変更はなく、移行準備作業も簡単に終わりそうです。

ISO委員会で、各機関から改訂情報をまとめましたので、2008年版への移行作業に役立てて下さい。

品質マネジメントシステム規格国内委員会

ISO推進委員会 委員長 藤田格平

1. ISO9001:2008 移行スケジュール

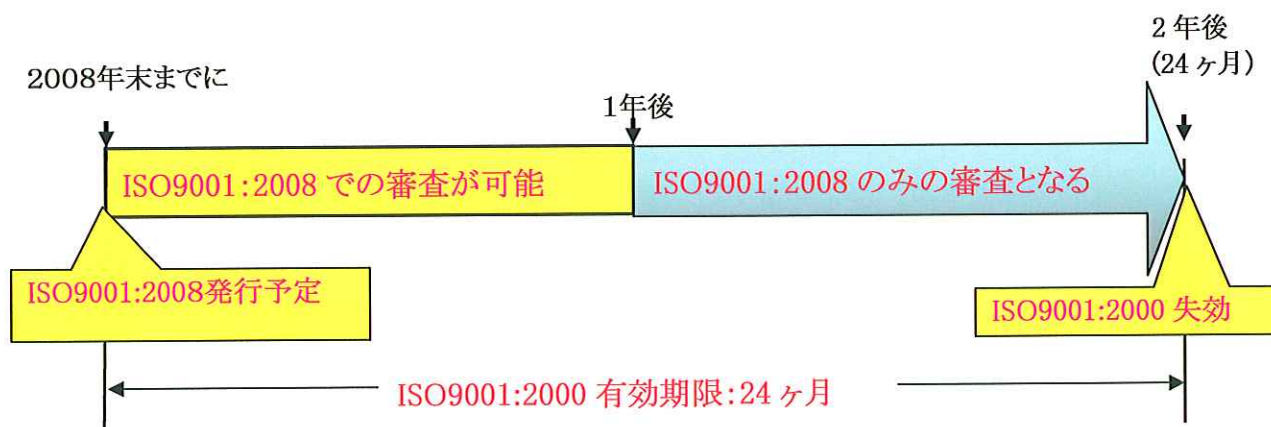
ISO（国際標準化機構）とIAF（国際認定機関フォーラム）発表による移行スケジュール

- ・ 2008年末までには、ISO2008：2008年版を発行する。
- ・ ISO9001：2008発行後、サーベイランス又は更新審査で、2008年版への移行審査を実施する。
- ・ ISO9001：2008発行1年後以降の登録審査、更新審査はISO9001：2008のみの審査となる。
- ・ ISO9001：2008発行後、24ヶ月の時点でISO9001：2000は失効する。

この情報は、JAB(財団法人 日本適合性認定協会)HP:<http://www.jab.or.jp/news/2008/08082902.html>より入手したものです。

原文:ISO and IAF announce schedule for implementation of accredited certification to ISO 9001:2008

邦訳:ISO and IAF announce schedule for implementation of accredited certification to ISO 9001:2008



2. ISO9001:2008版の(追補)改訂の目的

今回の改訂は、ISO9001:2000年版に対し、規格要求事項に変更はなく、改訂の目的は、次の3点です。

- ① ISO9001:2000年版に対する要求事項の明確化
要求事項が分かりにくいという意見に対する改善
- ② 公式解釈を必要とするような曖昧さの除去
ISO9001の規格解釈に曖昧な点があり、必ずしも2000年版の意図を正しく理解しないで、品質マネジメントシステムを構築・運営されている例が見受けられたことの改善。
- ③ ISO14001 との整合性の向上

この改訂内容情報は財団法人 日本規格協会HP:http://www.jsa.or.jp/stdz/iso/pdf/200808_kaitei.pdfより入手したものです。

3. 検討の経緯、留意事項

ISO において“追補”は、既存の国際規格の中の既に合意された技術的条項について、限定的な範囲で変更及び/又は追加することを指します。この限定的な変更には、規格の意図を変更しない範囲での要求事項の明確化及び曖昧さの除去も含まれます。

通常“追補”は、別文書として発行され、基となる国際規格とあわせて使用されますが、利用者に対する利益を勘案して、変更を包含した国際規格の新版（改訂版）として発行することもあることになっています。

今回発行されるISO9001 は、次の2 つの理由により、“追補改訂版”と呼称しています。

- 1) 上記2. を目的としたISO9001:2000 に対する限定的な変更であること
- 2) 発行形態が、変更を包含した新版（第4 版①）となること

4. 主な変更

ISO9001 の2008 年版では、軽微なものを含めると、約70 の変更が行われています。なお、前述のとおり、これらの変更は要求事項を追加するものでも、要求事項の意図を変更するものでもないことにご留意ください。以下に、主な変更を示します。

1) “consistent pair” の概念

“consistent pair（整合性のある一対の規格）” の概念が変更されました。2000 年版における“consistent pair” の概念は、ISO9001 とISO9004 とが、単独でも使用が可能で、双方で矛盾がなく、概念と用語が整合し、かつ、その章構成が一致していたことでした。しかしながら、今回の追補改訂作業において、ISO9001 及びISO9004 の章構成が一致していることは“consistent pair” の条件から外されています。

2) “Output Matters” への対応

追補改訂作業の過程において、“Output Matters” という問題・懸念が議論されました。“Output Matters” とは、ISO9001 が提示する品質マネジメントシステムは、要求事項を満たした製品を一貫して提供し、顧客満足を向上させるためのものであると適用範囲に規定されているにもかかわらず、現実にはISO9001 に適合していると判断されていても要求事項を満たす製品を提供できないことがあるという問題提起です。これを受けて序文では、品質マネジメントシステ

ムの有効性を強調するための変更が、追補改訂作業の範囲内で行われています。
規格の本体においても変更が検討されましたが、追補改訂作業の範囲を超えるため、次回改訂時に検討することになっています。

3) 要求事項の明確化

要求事項の明確化(意図の明確化を含む)のため、また、サービス業への適用可能性を考慮し、各箇条の記述の見直しを行い、修正を行っています。

(1) 記録の作成(4.2.1)と記録の管理(4.2.4)との区別

4.2(文書化に関する要求事項)を整理しました。4.2.1(一般)で記録の作成に関して既に規定されているため、4.2.4(記録の管理)では、記録の作成に関する規定を削除し、作成された記録の管理に関する要求事項だけを規定することになっています。また、その後の箇条で頻出する“(4.2.4 参照)”は、作成した記録を4.2.4に基づいて管理することを要求していることを明確にしています。

(2) 管理責任者の任命

5.5.2(管理責任者)では、ISO9001で求められる“管理責任者”は、組織の管理層の中から任命された者であることを明確にするために変更が行われています。

(3) “equipment”と“device”

7.6(監視機器及び測定機器の管理)では、“equipment”と“device”との差異についての議論があり、“equipment”に統一しています。なお、これまでのチェックリストなどの道具としての“device”も“equipment”に含まれます。(ISO9000の3.10.4(measuring equipment)の定義で“equipment”に“device”が含まれると解釈されます。)

(4) 8.2.4(製品の監視及び測定)のリリースの対象

8.2.4(製品の監視及び測定)では、“リリース”の対象が“顧客への引き渡しのための製品”であることを明確にしています。なお、8.2.4では“リリース”を正式に許可した人の記録について求めており、“リリース”の管理自体は7.5.1(製造及びサービス提供の管理)で規定されています。

(5) 8.5.2(是正処置)、8.5.3(予防処置)のレビューの対

8.5.2(是正処置)のf項、8.5.3(予防処置)のe項において、“レビュー”の対象は、“実施した活動の有効性”であることを明確にしています。
また、今回の追補改訂作業では、要求事項の明確化に加え、該当する要求事項の一層の理解促進のため、注記を新たに追加したり、注記の記述を変更したりしている点も特徴として挙げられます。

(6) 製品の範囲

1.1(適用範囲 一般)の注記では、ISO9001で意図する製品の範囲を明確にしています。

(7) アウトソースしたプロセスの管理

4.1(品質マネジメントシステム 一般要求事項)では、注記を追加して、アウトソースしたプロセスの管理の内容及び範囲、並びに7.4(購買)との関係を説明しています。

(8) 製品品質

6.2(人的資源)では、“製品品質”とは何であることを明確にするため、“製品要求事項への適合”と変更しました。さらに6.2.1(一般)に注記を追加して、“製品要求事項への適合”と要員との関係を説明しています。

(9) 作業環境の対象

6.4(作業環境)では、ISO9001における“作業環境”が、製品要求事項への適合に影響を与えるものに限定するものであることを明確にするため、ISO9000の定義(3.3.4 作業環境)にあわせた形で事例を注記に挙げています。

(10) 引渡し後の活動

7.2.1(製品に関連する要求事項の明確化)においても、“引渡し後の活動”を明確にするため、事例を注記に挙げています。

(11) 設計・開発の“レビュー”、“検証”、“妥当性確認”

7.3.1(設計・開発の計画)では、設計・開発のレビュー(7.3.4)、検証(7.3.5)、妥当性確認(7.3.6)はそれぞれの目的があるとしながらも、それらを組み合わせて実施してもよいことを注記に追加しています。

(12) 監視、測定における適切な方法

8.2.3(プロセスの監視及び測定)において、監視、測定に適切な方法は、組織の品質マネジメントシステムの有効性への影響に応じて、個々のプロセスに適切なものを考慮するとよいことを注記に追加しています。

(13) 合否判定基準への適合の証拠と記録との関係

8.2.4(製品の監視及び測定)では、記録(文書)に関する要求事項と、合否判定基準への適合の証拠の維持に関する要求事項とを段落を分けて記述することで、合否判定基準への適合の証拠が必ずしも記録ではないことを明確にしています。

(14) 不適合製品の管理

8.3(不適合製品の管理)では、2000年版では不適合製品を顧客に引き渡さないための処置と引き渡し後又は使用開始後に不適合製品が検出された場合の処置とを段落を分けることによって区別し、記述していました。今回、これらをまとめて記述し、また“該当する場合には”を挿入することによって、不適合製品に関して実施しなければならない処理方法をサービス業にも明確になるように規定しています。

4) ISO14001 との整合性の向上

使用する用語、語順、センテンスの順番、パラグラフの順番などを可能な限りISO14001と揃え、整合性の向上を図りました。

例えば、6.2.2のタイトルを、ISO14001と併せるために、現行の“力量、認識及び教育・訓練”から“力量、教育・訓練及び認識”に変更しています。

その他の例として、4.2(文書化に関する要求事項)において、4.2.1(一般事項)のa)項からe)項、4.2.3(文書管理)のf)項、4.2.4(記録の管理)などでISO14001との整合性を図るための変更が行われています。

5) ISO9001 における整合性、一貫性の向上

ISO9001 で使用する用語、表現を可能な限り統一することで、ISO9001 内の整合性、一貫性の向上を図っています。

例えば、“identify”と“determine”、“conformity to”と“conformity with”などの用語、及び“文書化された手順”の確立に関する要求事項などの言い回しについて、統一化が図られています。

“statutory and regulatory requirement (法令・規制要求事項)”をめぐる表現についても、統一化が図られています。

6) 翻訳上の変更

ISO9001:2008 のJIS 化において、ISO9001 における変更箇所に加え、JIS Q9001:2000 に対するこれまでのご意見をもとに、JIS における要求事項の明確化、分かりやすさを図るための変更を行います。さらに、JIS Z8301 (規格票の様式及び作成方法) を考慮した変更を行います。ただし、これらの変更は編集上のものであり、要求事項を追加するものでも、要求事項の意図を変更するものでもありません。主な変更は次のとおりです。

2008 年版のJIS Q9001 では、最新版のJIS Z8301 に基づき、要求事項であることを示す助動詞“shall”の訳を“～すること”から“～しなければならない”という表現に変更します。

“as applicable”、“as appropriate”などの表現については、見直しを行い、より適切な表現に変更します。

2000 年版のJIS Q9001 では、“リリース”について、括弧書きでJIS 独自の参考を付していました。しかしながらISO9001 において“リリース”の対象を明確にしたことにより、これらの参考をすべて削除します。

5.4.1 (品質目標) の“relevant functions and levels”とは、“直接的又は間接的に品質に影響を及ぼす組織内の該当する部門及び階層のすべて”ということを意図しているため、その訳を、“しかるべき部門及び階層”と変更します。

また、2000 年版のJIS Q9001 の5.6.3 (マネジメントレビューからのアウトプット) のb) 項、8.2.3 (プロセスの監視及び測定) の第1 パラグラフなどについて、要求事項の意図を変更しない範囲で、分かりやすく、明確なものにします。

5. 参考資料

- ① 移行スケジュール情報: <http://www.jab.or.jp/news/2008/08082902.html> (JAB (財団法人 日本適合性認定協会HP))
- ② ISO9001 の2008 年改訂の概要: http://www.jsa.or.jp/stdz/iso/pdf/200808_kaitei.pdf (財団法人 日本規格協会HP)
- ③ ISO9001:2008改訂 (英文): <http://www.westfallteam.com/Papers/changes-in-iso-9001-2008.pdf> (2008年版が発行されるまでの参考資料として下さい)
- ④ ISO9001:2008改訂 (和訳版): <http://yonetoqmooffice.web.officelive.com/renewed9001.aspx> (JISの2008年版が発行されるまでの参考資料として下さい)

以上

環境アラカルト



地球温暖化防止対策として二酸化炭素(CO₂)の排出を減らすために私たちにもできることは？

私たちの生活を見直し、二酸化炭素の排出を減らすためにはどうすればいいのでしょうか。
まず、ここで挙げた10の取り組みのうち、できるものから始めてみましょう。

□ 身近に出来る10の取り組み

1 冷房の温度を1℃高く、暖房の温度を1℃低く設定する カーテンを利用して太陽光の入射を調整したり、着る物を工夫したりすると冷暖房に頼らないで過ごせます。冷暖房を始める時期を少し待ってみましょう。		年間約 33kg の CO ₂ の削減、 年間で約 1,800 円の節約。
2 週 2 日往復8kmの車の運転をひかえる 通勤や買い物の際にバスや鉄道、自転車を利用しましょう。歩いたり自転車を使ったりする方が健康にもいいですよ。		年間約 184kg の CO ₂ の削減、 年間で約 9,200 円の節約。
3 毎日 5 分間アイドリングストップを行う 駐車や長時間停車するときは車のエンジンを切りましょう。大気汚染物質の排出削減にも寄与します。		年間約 39kg の CO ₂ の削減、 年間で約 1,900 円の節約。
4 待機電力を 50%削減する 主電源を切りましょう。長時間使わないときはコンセントを抜きましょう。家電製品の買い換えのときは待機電力の少ない製品を選びましょう。		年間約 60kg の CO ₂ の削減、 年間で約 3,400 円の節約。
5 シャワーを 1 日 1 分家族全員が減らす 身体を洗っている間、お湯を流しっぱなしにしないようにしましょう。		年間約 69kg の CO ₂ の削減、 年間で約 7,100 円の節約。
6 毎日風呂の残り湯を洗濯に使いまわす 洗濯や庭の水やりのほか、トイレの水に使っている人もいます。残り湯利用のために市販されているポンプを使うと便利です。		年間約 7kg の CO ₂ の削減、 年間で約 4,200 円の節約。
7 毎日、ジャーの保温を止める ポットやジャーの保温は利用時間が長いと、多くの電気を消費します。ごはんは電子レンジで温め直すほうが電力の消費は少なくなります。		年間約 34kg の CO ₂ の削減、 年間で約 1,900 円の節約。
8 家族が同じ部屋で過ごし、暖房と照明の利用を 2 割減らす 家族が別々の部屋で過ごすと、暖房も照明も余計に消費します。		年間約 238kg の CO ₂ の削減、 年間で約 10,400 円の節約。
9 毎日買い物袋を持ち歩き、省包装の野菜を選ぶ トレーやラップは家に帰れば、すぐゴミになってしまいます。買い物袋を持ち歩けばレジ袋を減らせます。		年間約 58kg の CO ₂ の削減。
10 テレビを見る時間を 1 日 1 時間減らす 見たい番組だけを選んでみる習慣をつけましょう。		年間約 14kg の CO ₂ の削減、 年間で約 800 円の節約。

(出典：環境省「身近な地球温暖化対策」より作成)

Step 4

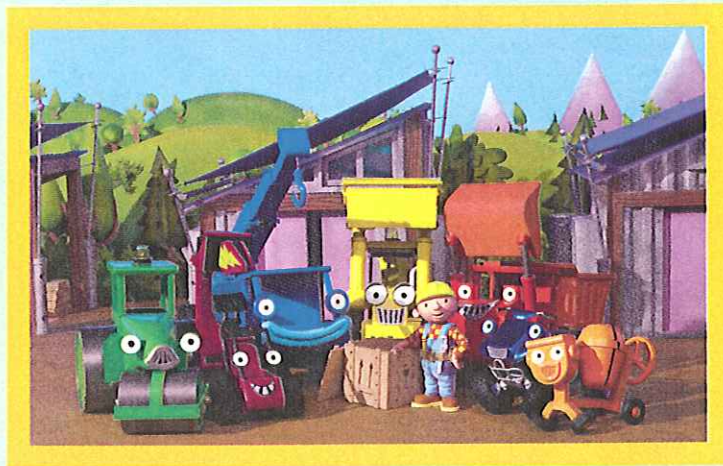
大切なのは、「こまわり」!



「ひまわりの丘」の
環境にやさしいまちづくり

その 12

【Reduce Reuse Recycle】



ボブたちは、いらなくなった材料もうまく利用してみんながきもちよくする「ひまわりの丘」づくりをこれからもどんどん進めていくよ。Reduce・Reuse・Recycle (3R) を取り入れて、自然にとってもやさしい行動をたくさんしていたね。わたしたちは、自分たちの地球を守るためにどんなことができるかな。

環境問題を解決するヒントは、みんなのちょっとした行動にあります。

「わたしの行動で本当に地球を救えるの?」なんて思わないでください。

一つ一つは小さな力でも、世界中のやさしい気持ちが集まれば、大きな力になります。

ここでは、みんなにもできそうな「わたしのチャレンジ宣言」※を紹介しします。今日から「こまわり」をきかせて、自分にできること、どんどんはじめてみましょう!

ぼくもできることをやってみよう! ボブたちの「ひまわりの丘」みたいにきれいな地球になるかなあ。



下の枠内にあるグラム数は、チェック項目を行った時の1人1日当たりの二酸化炭素削減量です。

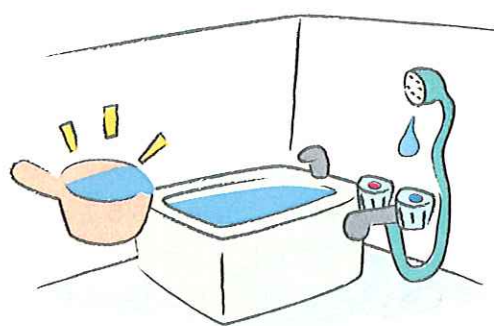
温度調節で減らそう

- ☐ 夏の冷房時の設定温度を 26℃ から 28℃ に 2℃ 高くする。..... 83g
- ☐ 冬の暖房時の設定温度を 22℃ から 20℃ に 2℃ 低くする。..... 96g



水道の使い方で減らそう

- ☐ 風呂のお湯を利用して身体や頭を洗い、シャワーを使わない。..... 371g
- ☐ シャワーの使用時間を 1日1分短くする。..... 74g



買い物とゴミで減らそう

- ☐ 買い物の際は、マイバックを持ち歩き、
省包装の野菜を選ぶ。 62g
- ☐ ゴミの分別を徹底し、
廃プラスチックをリサイクル。 52g



電気の使い方で減らそう

- ☐ 冷房の利用時間を1時間減らす。 .. 26g
- ☐ 暖房の利用時間を1時間減らす。 .. 37g
- ☐ 主電源をこまめに切って
待機電力を節約。 65g
- ☐ テレビを見ない時は消す。
(ブラウン管テレビ) 13g



※ **わたしのチャレンジ宣言** は、みんなの身近なところでできる温暖化防止のメニューの中から“実践してみよう！”と思うものを選んで、毎日の生活の中で1人1日1kg ※の二酸化炭素排出量削減を目指そう、という取組です。

現在、国民1人あたりが排出する二酸化炭素量は、1日平均で約6kgです。京都議定書で約束した6%の削減目標を実現するため、家庭での二酸化炭素削減目標は、年間約3,700万トンです。生活スタイルを見直せば、十分達成できる数字です。家庭から地球を守る！そんな意気込みでがんばりましょう。

※※ 1kgの二酸化炭素量とは、サッカーボール100個分に当たります。

調べよう 「わたしのチャレンジ宣言」について (<http://www.team-6.jp/try-1kg/> / 携帯の方はこちら www.team-6.jp/mobile/)





社団法人 大阪金属プレス工業会

〒543-0001 大阪市天王寺区上本町 5-5-15

TEL (06)6762-8629 FAX (06)6762-7633

<http://www.omsa.or.jp/>

[mail:omsa1@omsa.or.jp](mailto:omsa1@omsa.or.jp)